

おおいた 法の海

第 53 号

発行所

浄土真宗本願寺派

大分教区基幹運動推進委員会

〒874-0920 別府市北浜3丁目6-36

本願寺別府別院内

TEL 0977-22-0146

FAX 0977-24-7831



冬をむかえる

ほとけとなる命を生きる

世の中に二つの不思議があります。一つ目は、この私がたくさん命のつながりで今ここにあるということ。一人でも欠けていたら私はここにはいないということです。

私事ですが、先日私の祖父母の米寿祝いを行いました。祖父母の子3人からの親戚が一同に会しました。皆さんで命のつながりを共によこばせていただくご縁となりました。もう一つの不思議は、この私が、南無阿弥陀仏によって救われてゆくということです。

親鸞聖人は、阿弥陀如来の撰取の光明は「ひとたびとりて永く捨てぬなり」(左訓)と語釈され、一度その光のなかに撰めとったならば決して捨てることのないはたらきをお示しく下さいました。阿弥陀様のお誓いは、私たちを浄土に生まれさせ仏としあげるその時まで、常に私の方へと向けられているのです。撰取の光明に照らされる人生、阿弥陀様によっていつも見守られている人生は、大きな安心を恵まれた人生といえるでしょう。また、たとえどのような境遇にあっても、私の人生は仏とならせていただく尊い命を恵まれたといただくことができます。

米寿のご縁をいただいた親戚一同が、共にほとけとなる命をよろこんだ尊い一日となりました。

この私を自当てに「おまえを忘れはしない、どんなことがあってもおまえを救う」と誓われたご本願の有難さを感じるばかりであります。

合掌

(豊後高田組 興隆寺副住職 護城孝道)



某月某日、某寺にて。

★ ★

A子 御院家さん、こんにちは。来週ご法事をつとめるんですけども、「御更衣」は晒をお包みした方が良いですか、「御更衣」として現金をお包みした方が良いですか。

住職 どちらでも良いですよ。

A子 お寺さんも晒ばかり増えても使い途がなかるうって、となりのおじいさんが言っていたものですから。

住職 行事の時にテーブルに巻いたり、仏具磨きの拭き取りに使ったり、布巾にしたり、案外使い途がいっぱいあるんですよ。

誰の衣を更えるのか

私が今着ている襦袢も晒で縫ったものです。もちろん、襟だけはお坊さんの衣を新しくするためのもので、一番本来的な使い途だと思いますよ。

A子 えーっ、私、大きな勘違いをしていたかもしれせん。今の今まで亡くなった人の衣を

着替えてもらうためのものと思っていました。

住職 そう思っている人は多いようです。ですが、亡くなってお骨になつていてる人の衣を着替えさせるなんてとてもできませんし、第一、本当に着せ替えるんだつたら何年か一回しか供えない、それも晒だけしか供

だけの風習のようです。
A子 全国的にはどうなんですか。
住職 おそらく「御布施」として一包みにしている地域が多いと思います。

ペンペン草の境内地

②7 御更衣は誰の衣



A子 そういえば布を施すと書きますね。
住職 あ、その場合の「布」は

えないなんて、故人に対して失礼な話ですよ。
A子 そうですよ。冷静に考えてみると、亡くなった人の衣を着替えるなんて無茶な話ですよ。

意味が違います。広くまんべんなく敷きつめるといふほどの意味で、「薬剤を散布する」というときの「布」と一緒です。
有名な祇園精舎は給孤独長者が祇陀太子の所有する土地をお釈迦様に寄進しようとして、その土地を祇陀太子から買い取るために金貨を敷きつめて寄進し

たことに感動して、祇陀太子もその土地にあつた木をすべてお釈迦様に寄進したものと伝えられています。

A子 山一面を覆うほどの金貨なんて、とても私には布施できそうにありません。

住職 それぞれの人ができる範囲で最大限のほどこしをするのが、布施本来の意味です。

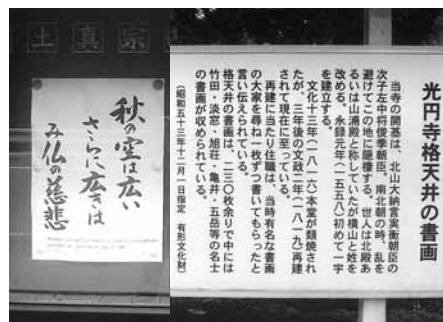
A子 話を元にもどしますが、「御更衣」の風習はどのように生まれたのでしょうか。

住職 昔は電話がなかったので、ご法事の申し込みやお迎えや御礼参りなど、何度もお寺に足を運んでいたと聞きます。お寺にお参りするときには「御仏前」を包む習慣がありますから「御布施」以外に「御仏前」を包むようになり、さらには新しい衣で法事に来てもらおうと「御更衣」を包んだり、本堂の御仏飯用に「御仏飯米」を包むようになっていったのではないかと考えられます。
A子 なるほど。今日は良い勉強になりました。

掲示伝道

町角伝道掲示板

〔耶馬溪 光円寺〕



耶馬溪町の金吉、山浦地区に光円寺様があります。ご門徒の方々が、以前より大きい掲示板を、あげて下さったそうです。

言葉は、その時々感じた事を中心に、院家様を選ばれ、貼っていらつしやいます。

光円寺様の格天井の書画は有名で、竹田・淡窓などの名士の方々が描かれていて、見学に来られる方も多い様です。ご門徒さんはもちろん、見学に来られる方にも、見ていただけるので、有り難いとお話し下さいました。

親鸞聖人の御言葉を聞く ④

申津組 照雲寺 松嶋 智 謙



教名御坊という門弟からの手紙

に對するお返事であります。ただ、このお手紙の最後に端書として「このふみをもてひとびと

にもみせまらせさせたまふべく候。他力には義なきを義とす

とはまふし候なり。」と書き加

えられてあることから、単なる一門弟への私信というよりも、

聖人の御跡を慕う多くの念仏者への御言葉であると聞くべきであります。

誓願と名号

誓願というのは、法蔵菩薩様が一切衆生を救わんと誓われた大悲の誓願であります。「御正信偈」に「五劫思惟之摂受」と

讃嘆しておられます様に、法蔵菩薩様は途方もない時間を掛けて、苦惱を背負いながら迷いの生死を生きている私の命を思い

尽くして下さい、必ず救うとお

誓いになりました。このお誓いを成就する為に兆戴永劫という更に遙かな時間と御苦勞を尽くされ、遂には南無阿弥陀仏、即ち「あなたを必ず救います」との喚び声の仏様と成就されました。この南無阿弥陀仏こそ名号でありお念仏であります。

そして、これが大事なところなのですが、誓願と名号は決して別なるものではないのです。誓願が無ければ名号の成就もありません。そして成就した名号の自身は「迷いの衆生を必ず救う」という誓願以外にありません。しかしながら「ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」との聖人常の仰せに反して、誓願と名号を別なるものと

考え誓願の自身を理屈を通して理解することがなければ幾らお念仏申しても救いに遭う事が出来ないとする「誓願・名号各別の異議」が蔓延っていた事が、最後に「このふみをもてひとびとにもみせまらせさせたまふべく候。」と聖人がお書き添えならねばならなかった事情でありました。

お名号のいはれ

母が苦しむ我が子を目の前にして涙を流すとき、それは単なる同情の涙ではないでしょう。目の前で苦しむ我が子を見ぞな

わし、我が子の苦しみを自らの悲しみ苦しみと受け止め、我が子の苦しみを取り除いてやりた

いと思う心が涙となつて流れま

す。涙々の自身は母が子と思う心しかありません。涙と心は別物ではないということです。悲

しみ苦しみを背負う私を見ぞな

わしたもう阿弥陀様は、私を思つて止まない中に誓願を起こされ、誓願は母の涙々の涙の如く私の命に喚び声と成就して届いてくださっています。

力なく終われる人生

人はそれぞれの人生を生きています。十人いれば十人の、百人

人いれば百人の人生があります。しかしながら、どのような人生を生きる者であろうとも、その

命が死に至るとき、体の内にある全ての「生きようとするとする」力

は遂に失われ、力なく今生の人生を終えていかねはなりません。そんな私を先んじて見ぞなわした阿弥陀様は、私に何の一つも条件を課すことなく、誓願に違

うことなく「必ず救う」の喚び声のままに私の命を丸ごと扱め

取つてくださっています。私の方から手を伸ばしてお救いにならぬではなく、阿弥陀様の方から今已に私に至り届いてくださり扱め取られる中にあるのです。

このお救いの中にこそ、力なく死んでいくしか無い筈の私が、

苦しみ悲しみの迷いの生死を超えて阿弥陀様のお浄土に迎え取られていく真実の人生が恵まれているのです。先人の言葉に

「力なく終わっていける人生」とあります。正しくこのお救

いの味わいでありましょう。聖人の「往生の業にはわたくしのはからひはあるまじく候なり」

との御言葉は、「私が何もしなくても助かる」と聞くよりも、「阿弥陀様が御苦勞の全てを尽くされて私をお救い下さるのであります」とお聞かせいただき

たいものです。

「誓願・名号とまふしてかはりたること候はず、誓願をはなれたる名号も候はず、名号をはなれたる誓願も候はず候。かくまふしきふらふも、はからひにて候なり。たゞ誓願を不思議と信じ、また名号を不思議と一念信じとなへつるうへは、何條わがはからひをいたすべき。きゝわけ、しりわくるなどわづらはしくはおほせられさふらふやらん、これみなひがことにて候なり。たゞ不思議と信じつるうへは、とかく御はからひあるべからず候。往生の業にはわたくしのはからひはあるまじく候なり。」

これは、『ご消息』第二十三通の親鸞聖人の御言葉です。



法 話

『大いなる願いの中で』

日田組 法林寺坊守 水之江 陽子



他人に迷惑をかけてはいけな
い——私たちは当然のことだと
思っています。

けれど、息子が幼稚園に通っ
ていた頃、ある教育講演会で、

「迷惑をかけるな、と育ててし
まうと、迷惑さえかけなければ
何をしても良いのだ、と思っ
てしまう。我が子をいじめつ子に
も、いじめられつ子にもしたく
なければ、迷惑をかけてもかけ
られても良い様な、お友達関係
を作ってあげることが大事です」と
聞かされました。私は納得し
て帰宅し、当時健在だった父に、
「それって、親同士が仲良くし
なさいってことよね」と話しま

した。すると父は「迷惑をかけ
なければ生きられないのが人間
なのだ、と教えることが大切だ」と
答えてくれました。

宮崎で坊守をしている、主人
の母が、ご門徒の中に、若い者
の世話にはならん、息子や嫁に
迷惑をかけられん、と頑なになっ
ておられる方がいると、哀しく
なると話してくれたことがあり
ます。義母は、そんな方に、
「じゃあ、あなたは、亡くなる
時に、自分で手を合わせて念珠
をかけて、棺の中に入りますか」と
聞くのだそうです。「そりゃ
あ坊守さん、無理な話だわ」
「だったら、生きてる間に、元

気なうちに、あなたに世話をか
けるね、ありがとう。迷惑だろ
うけどよろしくね。と伝えてお
く方が、どれだけ有難いでしょ
うかねえ——人は、生まれて
から死ぬまで、いろんな人と関
わり、さまざまな縁の中で育て
られてゆきます。

父の言葉と、義母の話は、私
に人として生きていく大切な姿
勢を教えてくれました。けれど
「ありがとう」「ごめんさい」

「おかげさま」——そんな言葉
が素直に言えて、そんな行動の
できる人に、私はなっているだ
とうかと改めて我が身を振り返
ると、恥ずかしさでいっぱいに
なります。つい、私は正しい、
私は悪くない、そう肩ひじ張っ
て生きている自分に気づかされ
ます。

親鸞聖人の仰せとして歎異抄
に「煩惱具足の凡夫、火宅無常
の世界は、よろづのこと、みな
もつてそらごとたはごと、まこ
とあることなきに、ただ念仏の

みぞまことにておはします」と
書かれてあります。

私の中に、確かなもの、真実
のことなど、何一つありません。
自分の都合で、ものごとの善悪
をはかり、自分勝手に生きてい
る私です。この口からは、悪口、
愚痴、自慢、嘘、暴言、並べた
らキリが無い程、耳をふさぎた
くなる言葉ばかり出てきます。
そして、その言葉を一番よく聞
いているのは、この私なのです。

ただ念仏のみぞまこと——阿弥
陀如来さまは、この私の口から
「南無阿弥陀仏」と、声の仏さ
まとなつて、私にはたらいてく
ださいます。

親鸞聖人は、ご和讃で
「煩惱にまなこさへられて
撰取の光明みざれども
大悲ものうきことなくて
つねにわが身をてらすなり」と
述べられています。

迷いの中に生きている私の目
には見えないけれど、阿弥陀さ
まは、たとえ口も動かさず耳も聞
こえなくても、この私に、気づ
けよ、かならず救う、いのち輝
けと願いをかけ、はたらいてく
ださっているのです。

大いなる願いの中で生かされ
ている私でありました。今年
父の十三回忌。静かに合掌し、
お念佛させていただきます。

あとがき

『法の海』が発行されてもう
二十年近くたちます。その頃は、
各寺で「寺報」を出されている
ところも少なく、「ご門徒さんに
読んでいただける寺報が欲しい」
との希望があり教区でお手伝
い出来ればと、「法の海」が出来
ました。その頃は、発行部数も
多く、大忙しでした。しかし、
二十年の間に「寺報」を出され
るお寺さんが多くなり、法の海
の発行部数も減少しました。こ
こに来て、法の海の役割も、お
わりに近付いたのかな？と思え
ます。嬉しい事ではあるのです
が、やっぱり寂しさもあります。
ここで、少しお休みをして、様
子を見ては？と編集委員で話し
合いました。今、本山から「安
穩」がご門徒さんに届いていま
すので、少しお休みをします。
新しくお会いする時は、変身し
て…

長い間ご購入下さり有り難う
ございました。又、お会いする
日を楽しみにしております。

合掌

みらいちゃん

